

令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:00-10:30

第 6 会場

<テーマ>

病理検査 ―品質管理の最前線―

<ねらい>

昨今の病理検査は、薄切や染色を中心とした標本作製技術だけでなく、検体の管理や染色の標準化、精度管理また、試薬管理等様々な管理業務が求められるようになってきました。また、日々の検査技術や遺伝子検査の発展により求められる内容も高度化、複雑化しています。施設の規模によって可能な取り組みは異なると思いますが、今回、細胞診の精度管理、試薬管理、WSI 管理、遺伝子検査、コンパニオン検査について代表施設での運用や管理方法を紹介し、それをもとに討論できればと考えています。

現在必要とされている病理検査室の管理（最前線）について議論を深めることで、明日へと一歩踏み出す企画になることを確信しています。

司会 藤田 智洋（小牧市民病院 臨床検査科）

今野 和治（桑名市総合医療センター 医療技術部 検査室）

<講演内容>

1. 細胞診の精度管理 ―富山大学附属病院における取り組み―

演者：小原 勇貴（富山大学附属病院 病理部）

2. GS1 バーコードと Excel VBA を活用した試薬管理

演者：井上 卓（静岡県立こども病院 検査技術室）

3. 当院におけるバーチャルスライドの運用と管理

演者：林 直樹（医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床検査・病理技術科）

4. 当院における遺伝子検査を踏まえた病理検体の取扱いと管理

演者：水口 聖哉（石川県立中央病院 検査室）

5. 免疫組織化学領域のコンパニオン検査の管理

演者：石井 辰弥（大垣市民病院 病理細胞診室）